

第6次高浜市総合計画推進会議（第2回） 会議録			
日時	平成25年7月24日（水）午後7時00分～9時00分		
場所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	9名
出席者	委員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (12名出席)	
	行政	財務グループ リーダー 竹内正夫（財政分科会リーダー） 文化スポーツグループ リーダー 内藤克己（生涯学習分科会リーダー） 教育センターグループ 主幹 神谷理（学校教育分科会リーダー） こども育成グループ リーダー 磯村順司 経営戦略グループ リーダー 山本時雄（産業・観光分科会リーダー） 市民生活グループ リーダー 山下浩二（環境・憩い分科会リーダー） 都市整備グループ リーダー 平山昌秋 都市防災グループ リーダー 芝田啓二（防犯・防災分科会リーダー） 地域福祉グループ リーダー 杉浦崇臣（地域福祉分科会リーダー） 保健福祉グループ リーダー 加藤一志（健康分科会リーダー） 人事グループ リーダー 野口恒夫 市民窓口グループ リーダー 木村忠好 上下水道グループ リーダー 竹内定 福祉企画グループ リーダー 磯村和志 介護保険グループ リーダー 篠田彰 (15名出席)	
	事務局	企画部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明（自治推進分科会リーダー） 同 主幹 三井まゆみ 同 副主幹 鈴木明美 同 主査 山本衣江 同 主査 山本久美 同 主事 榊原雅彦 同 主事 中村彩 同 主事 岡田真吾 (9名出席)	
次第	1 あいさつ 2 議題 1) 市民意識調査結果について 2) 「施策評価シート」（内部評価）の発表について 3) 各分科会の取り組みテーマの情報共有 3 その他		

資 料	資料1：市民意識調査の結果 資料2：施策評価シート 資料3：施策評価（点検・確認）の進め方 資料4：各分科会の「取り組みテーマ」と分科会開催状況 資料5：第6次高浜市総合計画推進会議（第1回）会議録
-----	---

1. あいさつ

- ・第2回推進会議を始めさせていただく。
- ・本日は、基本計画に掲げた目標の達成状況を評価する、点検・確認作業を、市民の皆さんとともに行うにあたり、行政の内部評価として「施策評価シート」をとりまとめたとのことなので、その内容について発表をしていただく。

2. 議題

1) 市民意識調査結果について

事務局より、資料1『市民意識調査の結果』について説明。

—意見・質問なし—

2) 「施策評価シート」(内部評価)の発表について

各グループリーダーより、資料2『施策評価シート』を基に説明。

事務局： ・「施策評価シート」を今後、市民会議の各分科会にお示しし、点検・確認をしていただき、目標達成に向けてのアイデアを出し合っていただくという流れになる。そのため、各分科会のリーダーである委員の皆さんには、内容を事前にご理解いただき、分科会の運営をスムーズにしていきたい。また、自分の分科会だけではなく、全体が目通しもしていきたい。

・今回の発表については、分かりにくいなどのご指摘があれば、修正したうえで、市民会議の分科会へ提出させていただくため、よろしく願いたい。

会長： ・発表方法としては、まず、行政から、目標ごとに発表を行っていただき、4つの基本目標の区切りで、委員の皆さんからのご意見等をお聞きしていく。
・時間も限られているため、行政からの発表は、1目標あたり3分以内とし、3分を経過した時点でベルを鳴らさせていただく。間に挟む質疑応答の時間も、5分程度で進めていきたい。

・発表にあたっては、シートの「5. みんなで目指すまちづくり指標・市民意識調査結果に対する現状分析」、「8. 課題と今後の取り組みの方向性」、「9. 中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組み」を中心に説明いただきたい。

◆基本目標4

行政： ・「目標(14)一人ひとりの元気と健康づくりを応援します」について発表させていただきます。

・みんなで目指すまちづくり指標は、「1) 日常的に運動やスポーツを行っている人の割合」が若干下がっている。「2) 栄養や食生活に気をつけている人の割合」は8割を超えており、上昇の幅が少なくなっているものの、継続して高い値を示している。「3) かかりつけ医を持っている人の割合」は、2012年の実績値が73.5%となっており、2013年の目標値である72%を超えた。また、市民意識調査の結果についても右肩上がりとなっている。

- ・課題と今後の取り組みの方向性として、健康分科会では、今年度の取り組みテーマを「もっと健康寿命をのばそう！」と掲げている。心身ともに自立し、健康的に生活できる期間、すなわち、健康寿命を延ばしていくためには、いきいき健康マイレージ制度の充実、高齢者の居場所及び生きがいづくりである生涯現役のまちづくりによって、実現できていくものと考えている。また、刈谷豊田総合病院とかかりつけ医をつなぐ新たなネットワークである、地域医療ネットワークの仕組みや利便性を広くPRしていきたい。
- ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みについては、3点掲げている。1つ目の高齢者支援として、高齢者の健康づくりと生きがいづくりを進めていく。2つ目の地域包括ケアに基づく在宅支援としては、高齢者が尊厳を保ちながら、要介護状態になっても、住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるよう、医療・介護・予防・生活支援が提供できる地域の体制づくりを推進する。3つ目の多様な介護予防・認知症プログラムと認知症初期集中支援体制の構築としては、今後、高齢者及び認知症高齢者の増加が予想されるため、介護予防や認知症予防に力を入れていくことが必要となってくる。今年度から、認知症初期の集中支援に取り組み始めているが、認知症を早い段階で把握し、在宅での具体的なケアの提供、家族に対するアドバイスができる体制を構築していきたい。

行政：

- ・「目標（13）一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます」について発表させていただく。
- ・みんなで目指すまちづくり指標については、3つとも実績値が前年度より上昇してはいるが、このままでは目標値の達成は困難であると感じている。このことは、市民会議から提言のあったNEWボランティア人について、十分な普及啓発ができていないことに原因があると考えている。
- ・課題と今後の取り組みの方向性、及び、中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みについては、今後増加する高齢者や親亡き後の障がい者の生活把握といった課題に対して、高齢者の実態を踏まえた地域密着型施設や障がい者のグループホームなど、生涯にわたって不安なく生活できる場の整備が必要だと考えている。また、高齢者や障がい者が、その人らしくいきいきと安心して暮らすために、ボッチャなどの普及を通して、地域の中での交流の場や活動機会を創出するとともに、これらの方の権利が守られるよう、権利擁護センターを設置し、必要な相談支援を行える体制の整備に取り組む。
- ・次に、地域福祉の担い手不足といった課題に対し、NEWボランティア人や認知症サポーターなど、地域で困りごとを抱える方を支援する人材の発掘と養成のための効果的な取り組みを計画的に実施する。また、継続的に活動できるよう、具体的な活動の場の提供に努めるとともに、地域が担い手となる福祉サービスの構築支援にも取り組む。

- ・最後に、現在、手挙げ方式のみで災害時要援護者名簿の作成を行っており、真に支援が必要な方が名簿から漏れているといった課題があるため、行政内部での横断的な体制を構築するとともに、地域の情報を拾い上げ、真に支援が必要な方の実態把握を行い、名簿への掲載に同意を得るなど、名簿の作成方法の見直しを行う。また、地域への協力を働きかけ、要援護者一人ひとりを地域ぐるみで支援できる体制の構築に取り組む。

—意見・質問なし—

◆基本目標 3

- 行政：
- ・「目標（12）安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます」について発表させていただく。
 - ・市民意識調査結果は、これまでの地域の防災訓練や防災ネットきずこう会などの活動により、前年度より 5.6%上昇している。しかし、年代別の結果を見ると、10 歳代、20 歳代の「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の割合が 50%以下となっており、今後、若年層を対象とした防災・防犯対策が必要であると考えている。
 - ・これまでの主な取り組みと成果としては、平成 24 年度に、津波避難対策として、同報系防災行政無線の整備を行った。まちづくり協議会や町内会、企業などが参加した「防災ネットきずこう会」も立ち上げ、地域防災ネットワークの構築に向けた検討を始めることができた。また、市民会議の皆さんと協力して、標高の見える化を実施するとともに、まちづくり協議会では、新たな地域の防災体制の検討がなされている。
 - ・課題と今後の取り組みの方向性として、1 つ目に防災に対する意識改革、2 つ目にあいさつ運動の展開、3 つ目に標高の見える化として平成 24 年度に引き続き、コンビニ・医療機関など不特定多数の人が利用する施設を対象に、標高サインの設置を依頼する。平成 24 年度は、約 70 件程度承諾をいただいた。4 つ目に防災教育の推進として、小中学校での検討・調整を行うため、教育委員会と都市防災グループが連携して、学校防災検討会を立ち上げた。また、平成 25 年度防災ネットきずこう会では、被災体験者（消防団・学校・企業等）による講演会を開催することとしており、6 月 29 日（土）に岩手県陸前高田市の消防団の方をお招きし、講演会を開催した。12 月 20 日には、学校関係の講演会も予定している。
 - ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みとして、防災に備えた「自助」、「共助」、「公助」を基本としながら、新たな計画を策定していく。
- 行政：
- ・「目標（11）自然豊かな魅力あふれる憩いの場を守り、育てます」について発表させていただく。
 - ・この目標は、皆さんの憩いの場である公園を自分たちの公園として、心に潤いや安らぎを与える環境として整え、健康づくりや地域の交流の場として機能させるための取り組みである。

- ・みんなで目指すまちづくり指標については、「1）公園・緑地、街路樹や水辺空間づくりに参加したことがある人の割合」は良好であったが、「2）公園をよく利用する人の割合」が0.8%の減少となっており、より一層、地域と連携しながら、活動の輪を広げていくことが重要と考えている。
- ・今後、公園と緑地、街路樹などの水辺づくりの事業、行事等の参加や公園等の利用率の向上に向けて、愛知県が進めている（仮称）高浜緑地の上部利用における設計では、地域のボランティア団体、各種スポーツ団体との調整を図りながら、進めていくため、事業主体である愛知県へ働きかけていきたい。
- ・現在進めている、論地町地内の防災機能を有した公園整備については、地域の皆さんと月1回のワークショップを開催しており、一緒に公園づくりを行っている。これらの取り組みにより、指標の向上を目指していきたい。

行政：

- ・「目標（10）ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります」について発表させていただく。
- ・この目標は、住みやすいまちづくりのために、社会資本である道路や水道、下水道の整備や、交通政策を進める取り組みである。
- ・みんなで目指すまちづくり指標及び市民意識調査結果については、ともに上昇しているが、今後の社会資本整備については、市の財政状況を考慮して、計画的に進めていきたい。国や愛知県の関係機関と連携して行う公共の交通政策としては、衣浦定住自立圏の圏域連絡バスの研究を行っていく。
- ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みとして、地震に備えた水道管の耐震化や生活環境の改善のために、下水道の整備の計画を進めていく。また、国や愛知県に実施いただく事業については、整備が完了するまで、要望活動を行っていきたい。

行政：

- ・「目標（9）みんなでまちをきれいにします」について発表させていただく。
- ・みんなで目指すまちづくり指標について、特に注目しているのが、「2）1人1日あたりの家庭系ごみ排出量」。このごみの種類としては、生ごみ、紙ごみ、その他となるが、今後、紙ごみの減量が目標達成に必要と考えている。
- ・そこで、課題と今後の取り組みの方向性として、第6次高浜市総合計画に掲げた「目標が達成された姿」ごとに4つの内容を取り上げた。その中でも、2つ目の「資源化が進み、ごみの量が減っています。」については、現在作成を進めている「高浜市新ごみ処理計画」の中で、ごみの減量の鍵と考えている紙ごみのリサイクルをさらに進めていく必要があると考えている。3つ目の「ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています」については、環境美化に関心を持ち、活動されている市民が増えている反面、なかなか減少しないのが、不法投棄の問題であり、これは、行政だけでは限界があることを踏まえ、一人でも多くの市民の方とともにこの問題に取り組むことが必要と考えている。そこで、これまで公開していなかった不法投棄情報などの積極的な公開を考えている。

- ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みについては、3点挙げている。1つ目に継続した環境学習の実施として、現在、小学校4年生を対象に環境学習を実施しているが、学習の成果として、自ら行動できるような取り組みを検討していきたい。2つ目に「新ごみ処理基本計画」の作成と推進として、紙ごみのリサイクルの推進の他、ごみの減量の決め手となってくる分別収集について、核家族の進展や高齢化などに対しても、持続可能なものとなるように検討していく。3つ目にマナー向上のための取り組みとして、ごみの不法投棄や散乱など、地元の方と連携し、きれいなまちが維持できるよう協力していただける市民の方を募っていきたい。

行政：

- ・「目標（8）地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます」について発表させていただく。
- ・みんなで目指すまちづくり指標については、「1）コミュニティ・ビジネスの事業数」は、平成24年度末現在で0件となっている。「2）まつり、イベントの来場者数」は、すでに目標値を上回ってはいるが、平成23年度に比べると減少している。市民意識調査の結果は、1%の上昇となっている。コミュニティ・ビジネスの事業数については、セミナーの開催により、創業の下地が出来つつあり、具体化に向けて前進をしている。まつり、イベントの来場者数については、天候などにも左右されるということで、平成23年度を下回ったが、B-1 グランプリにとりめしが参戦することに対して支援を行った成果もあり、目標値自体は上回った。
- ・これまでの主な取り組みと成果として、コミュニティ・ビジネスについては、セミナーの開催と個別相談を開催するとともに、新たなコミュニティ・ビジネスの芽を発掘するためのアイデアプラン発表会を開催した。これを受け、創業等に対する財政支援策等を検討し、制度化を図っている。平成25年度から支援制度の運用を開始、2件の事業申請があり、8月1日に審査委員会を開催する予定である。また、まつり、イベントについては、平成24年度春の鬼みちまつりとタカハマ物語を合同開催し、市内外に情報発信をした。また、B-1 グランプリでは、北九州市の本戦に参戦し、併せて三州瓦のPRも実施した。
- ・課題と今後の取り組みの方向性については、高浜市が自慢できる地域資源の発掘、それらの連携による相乗効果が必要ということも考え、関係機関と連携して、高浜自慢の発掘に努めていきたい。コミュニティ・ビジネスの運営支援については、創業したコミュニティ・ビジネスの継続的な運営ができるよう、経営に関するアドバイスや地域とのネットワークの形成が図られるよう、フォローアップが必要と考えている。
- ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みについては、高浜自慢をしっかりと育てて交流人口の増加につなげていきたい。また、コミュニティ・ビジネスの創業者の発掘を行うとともに、創業者自らがネットワークを

形成する場づくりのサポートをしていきたい。

- 行政：
- ・「目標（7）まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします」について発表させていただく。
 - ・みんなで目指すまちづくり指標の「1）製造品出荷額等」と「2）小売商店の店舗数」は、秋の公表となるため、未公表となっている。「3）組織化・法人化した農業者団体の数」は現在0団体であるが、目標1団体に向けて準備を進めているところである。「4）企業誘致制度を利用した件数」については、順調に増加している。市民意識調査結果については、0.2%とわずかなが、増加している。
 - ・これらのことから、高浜市は第2次産業就業者数の割合が高いという特性があり、景気の動向によっては、産業の空洞化が懸念されるため、常に意識を持って、産業が元気なまちであるよう、取り組んでいかなければならないと考えている。また、「企業誘致制度を利用した件数」については、工場の新創設や設備投資などによる制度を利用した件数が増加していることから、リーマンショック後の後退した景気が、回復傾向にあるものと考えている。
 - ・これまでの主な取り組みと成果としては、企業誘致や市内企業の定着、雇用の拡大を図るため、奨励金制度や中小規模の事業者への支援制度の創設・運用をしていくとともに、平成24年度については、愛知県と連携した新たな新制度を検討し、平成25年5月17日から運用を開始している。農事組合の法人化に向けては、平成23年度に吉浜地区で任意営農組織を立ち上げ、高取地区についても、法人化に向けた話し合いを継続している。三州瓦の使用頻度の向上や販路拡大に向けては、宮城県岩沼市へ官民のトップセールスを実施している。
 - ・課題と今後の取り組みの方向性としては、農業経営の安定として、JA あいち中央、及び、農用地利用改善組合と連携を密にして、地区営農者を交えた話し合いを積極的に進めるとともに、特産野菜の発掘・推進に努める。地場産業の支援についても、PRが不足していると考えているため、販路拡大・PR事業等の支援を行いたい。工業用地の創出については、新たな工業立地を具現化するための関係機関との調整、体制整備等を検討する。
 - ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みとしては、農事組合の法人化や、商工会や愛知県陶器瓦工業組合と情報交換を密にし、課題を共有する中での産業振興を図る。また、工業用地の創出については、具現化に向けての検討を行っていきたい。

【意見等】

- 委員：
- ・目標（10）の現状分析で、「いきいきバスのコース見直しにより利用者が増加している」とあるが、いきいきバスを利用して、自分で福祉施設に通所できていた方が、いきいきバスのコース見直しによって、バス停まで支援員が付かないと行けなくなってしまう、かえって、通所が出来なくなってしまう

たという話を聞いた。効率を図ったがために、目に見えないマイナス効果が出ているという話も聞いている。いろいろな事情でバス停の位置や時間帯は調整されたと思うが、改めて、福祉事業所に近いいきいきバスの停留所や時間帯の再調査などを行い、見直しをしていただきたい。今まで1人で通えていた人が、できなくなってしまうのでは本末転倒だと思う。再調査、見直しを行うことで、より効果的な運行ができると思う。

- 行政： ・ご指摘の通りであり、そういった観点からも見直しをさせていただきたい。
- 委員： ・目標（12）について、要援護者対策の件は非常に期待している。平成24年度から、まち協で要援護者のマップ作りを行っているが、民生委員の中で温度差があるように感じる。65歳以上になると、自主的か、民生委員の呼びかけか分からないが、健常者がかなり要援護者の名簿に入っており、マップにしたときに疑問に感じた。基準をはっきりし、お互いに連携して、タイムリーなマップ作りをしたい。
- 行政： ・当初、手挙げ方式で名簿を作成したため、本当に支援の必要な人が漏れていたり、要らない人が名簿に載っていたりする。その辺りを今年度見直していきたいと考えている。

◆基本目標2

- 行政： ・「目標（6）人のつながりやぬくもりの中で、子育て・子育てを支えます」について発表させていただく。
- ・市民意識調査結果については、計画策定時から11.9%と大きく伸びており、今後も更に効果的な事業を行っていく必要性を感じている。みんなで目指すまちづくり指標「1）子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合」については、2年で6.6%と着実に伸びているが、子どもへの意識の度合いを測る指標「2）子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合」については、計画策定時より減少した後、今年度微増と、伸び悩んでいる。以上のことから、子育て環境については、更に満足度を高めるための事業を展開することが必要であり、子どもに対する意識の向上については、更なる働きかけが必要であると考えている。
- ・子育て環境の満足度の向上という点については、待機児童が発生している状況において、保育ニーズに対応することが課題であると考えている。今後の取り組みの方向性としては、現在、民間法人による保育園開園が平成26年度に2園予定されているため、その推進を図っていきたい。また、平成27年度に本格施行となる「子ども子育て支援法」の中で策定が義務付けられている「子ども・子育て支援事業計画」を、ニーズ調査を踏まえて策定し、その実施に取り組む。
- ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みとしては、新たに開園予定の保育園により、現在、大きな課題である、待機児童の解消を図るとともに、今後、共働き家庭の増加による保育園ニーズの更なる高まりも予想

されるため、幼稚園を、保育園機能を持つ認定こども園に移行することを検討して、今後の保育ニーズへの対応をしていきたい。子どもに対する意識の向上については、本市では、地域で活躍する個人や団体が数多くおり、まずは、そういった方の活動を知ってもらうなど、情報収集・発信が重要であるため、現在の子育て情報を一元化して情報発信するポータルサイトを活用して、利用者や活動者の連携に、効果的につなげていければと考えている。また、小学生向けに行っている放課後居場所事業においても、地域の力を活かす仕組みを構築していきたい。子どもに対する意識の底上げについては、子ども市民憲章を活用することで、本格的な働きかけができると考えている。

- ・以上のように、保育ニーズへの対応と地域の人材をうまく活用した取り組みを、中期基本計画では展開していきたい。

行 政 :

- ・「目標（５）心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります」について発表させていただく。
- ・みんなで目指すまちづくり指標「１）毎日をととても楽しいと感じている子どもの割合」と「２）学習に積極的に取り組む子どもの割合」については、目標値を達成しているが、「３）過去１年間に地域行事、ボランティア活動に参画した子どもの割合」は大きく下回っている。これは、「参画」という言葉が、子どもにとって、十分意味を捉えられていないためと思われる。実際に、高取小学校では、彼岸花の植栽や盆踊りの出店等に参画しているが、子どもたちの中では「参画」という意識はないように感じる。市民意識調査の結果については、順調に 9.1%伸びている。
- ・これまでの主な取り組みと成果としては、平成 23 年度に教育基本構想を策定し、平成 24 年度の取り組みとして特に大きかったものが、「高浜カリキュラムの策定」である。
- ・課題と今後の取り組みの方向性として、特に学校の想いと地域の想いのマッチングについて説明させていただく。学校は、地域からの支援のおかげで、教育活動が充実してきている。同時に、地域によるまちづくりの意識も高まっている。その一方、各種団体から、子どもの参加依頼があるイベントや授業時間を使った出前授業が学校に集中し始め、本来、学校が最優先しなければならない授業時間が圧迫されている。そこで、学校教育分科会では、例えば、学校関係者と学校支援各種団体が、顔を見ながら両者の想いを伝えあい、調整するような、両者の想いをマッチングする仕組みを作れないかという方向性が出された。
- ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みとしては、「12 年間の学びや育ちをつなげる」という職員の意識の向上に力を入れていきたい。高浜教育ビジョンである「高浜を愛し、高浜の良さを学んで、高浜でたくましく生きる未来市民の育成」の実現に向けて、市内幼保小中の教職員一人ひとりが、目の前にいる子どもたちのために、系統性を意識した指導をしてい

けるようにしていく。そのために、教職員一人ひとりが、それぞれの教育観や指導方法の違い、それぞれの子どもの様子などを正しく理解しなければいけない。そこで、中期基本計画では、高浜市の強みであるスモールスケールメリットを活かし、高浜市全体で異校種の連携を強化していく。今後、縦の連携、学校・家庭・地域の横の連携を意識しながら、生きる力の基盤となるように努めていく。

- 行政：
- ・「目標（４）学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます」について発表させていただく。
 - ・みんなで目指すまちづくり指標「１）高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」、「２）将来の夢を持っている子どもの割合」、市民意識調査結果については、どれも前年度実績を上回る結果となった。今年度の大きな取り組みとしては、市民映画「タカハマ物語」の制作・上映が行われた。この「タカハマ物語」の制作に、子どもを中心として非常に多くの市民の方に協力・参加していただいた。今までとは違う視点から、高浜市を眺めることによって、高浜市の新たな魅力の発見につながったことも、実績値上昇の大きな要因の１つだと考えている。
 - ・課題と今後の取り組みの方向性として、第２次生涯学習基本構想においては、子どもたちを学びの根っことして位置づけている。この子どもたちの成長支援に、地域の大人の皆さんが関わる取り組みが生まれてきている。そういったさまざまな取り組みを継続、活性化させることによって、地域づくりの原動力が大きくなっていくものと考えている。そのための取り組みを具現化し、実行に移していく必要があると考えている。
 - ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みとして、人づくりをまちづくりの動きへとつなげていく取り組みを位置づけていきたい。そのため、子どもたちを中心とした地域の人たちの成長に関わる仕組み、また、地域の中で、子どもたちだけではなくて、大人もともに成長している実感が味わえるような仕組みづくりを着実に増やしていきたい。また、子どもたちの成長支援という視点も欠かせないため、市民映画「タカハマ物語」の制作に込められた想いを継承し、多くの市民の皆さんに関わっていただきながら、子どもたちが好奇心を膨らませる取り組み、子どもたちの成長支援に関する取り組みを築き、継続していきたい。

【意見等】

- 委員：
- ・目標（５）の中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みの中で、“連携”と“系統”について書かれている。幼稚園保育園では、園児の育ちや特性を、保育士がきちんと記録として小学校に送っているが、なかなか利用されていないようである。よく保育士から聞くのが、「幼稚園保育園でできたことが、小学校に入った途端にできなくなってしまった」、「記録を送っているにもかかわらず、それを見てもらっていないのではないか」という声。

- ぜひ、ここに書いてあるように、職員全員が共有することによって、さらに良い子どもを育てるように、確実に実施していただけるようお願いしたい。
- 行政：・まさに 12 年間の学びと育ちをつなげるという意味で、異校種参観を積極的に進めていきたい。
- 委員：・同じ部分で、『異校種の密な「連携」を大切にしながら、「系統性」を意識した指導をする』という言葉があるが、さっぱり何をするのか分からない。こういった難しい言葉遣いは、分かりやすくいしていただきたい。
- 行政：・幼保小中を別の学校と考えると、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」というものがある。その部分を滑らかにしていきたいということで、方策を打っていききたい。言葉については再度検討する。

◆基本目標 1

- 行政：・「目標（3）市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います」について発表させていただく。
- ・みんなで目指すまちづくり指標、市民意識調査結果ともに上昇傾向にあり、特に指標「2）地域活動に参加したことがある人の割合」については、2年前と比べて 10.6%の上昇、「3）地域活動に参加している職員の割合」については、18.1%の上昇と、すでに掲げた目標を達成しており、協働のまちづくりが進んでいる状況がうかがえる。なお、指標「1）「高浜市自治基本条例」を知っている人の割合」については、達成が非常に厳しい状況にあり、今後、小学校への出前授業などを継続していく中で、その精神を漢方薬のように徐々に広めていくしかないと感じている。
- ・課題と今後の取り組みの方向性として、みんなで力を合わせてまちづくりを行うためには、自治基本条例の精神の普及、市民が主体となったまちづくり活動の PR、高浜らしい協働のあり方の模索、現場の声を踏まえた地域活動が活発になる仕組みの検討などを行っていききたい。
- ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みとしては、子どもたちや若い世代に対するアプローチとして、子ども向け副読本を活用した出前授業を全小学校へ展開し、小学校の高浜カリキュラムに組み入れていただけるような働きかけ、及び、副読本についても見直しを図っていき、体系的に継続できるような仕組みをつくっていききたい。また、出前授業については、実際に活動している市民の方が授業に出向くということが肝であるため、これを継続できる仕組みも引き続き、構築していきたい。職員力の関係では、職場全体の力を高めるという取り組みになるが、既存の枠にとらわれない斬新で、常に問題意識と確固たる使命を持って行動していける人材を、地域と協働していく中で育成していく。
- 行政：・「目標（2）次世代のために、健全な財政運営を行います」について説明させていただく。
- ・みんなで目指すまちづくり指標「1）将来負担比率」については、前年度比

10.6%の減少ということで、順調に目標値に近づいている。「2) 市の財政状況に関心を持っている人の割合」については、4.8%減少しており、昨年度に引き続き、状況は悪化している。市民意識調査については、3.3%上昇しており、わかりやすい予算書や広報といったツールを活かした財政状況の見える化により、正しい情報が市民の皆さんに伝わっていると分析している。

- ・こうした結果を受け、課題と今後の取り組みの方向性として、市民に対するアプローチをポイントに、財政への関心度を高めるための工夫が必要であるということで、現在、財政分科会では、財政ゲームをはじめ、広める手法について検討しているところ。また、健全な財政運営を行うため、昨年度取り組んだ、新たな予算編成の精度を高めること、公共施設のあり方計画の内容を踏まえて、新たに長期的な視点に立った財政見通しを作成していく。
 - ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みとして、将来にわたって計画的な財政運営を行っていくということが、これまで以上に重要になってくると考えている。そのためには、しっかりと自主財源を確保し、その財源に見合った歳出を組むという仕組みを確立していきたい。また、今年度、公共施設あり方計画が策定される予定であるため、その内容を踏まえ、受益者負担の適正化なども含めてマネジメントをしっかりと行っていきたい。
- 行政：
- ・「目標（1）市民とともに歩む経営を行います」について発表させていただく。
 - ・みんなで目指すまちづくり指標については2つとも掲げた目標を達成している。特に、「1）目指すまちの姿である「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を知っている人の割合」については、0から始まり、さまざまな見える化等を行った結果、33.6%となった。非常に温かみのある言葉でもあり、今後も広めていきたい。また、「2）総合計画の評価や進捗管理に参加したことがある人の数」は、市民会議への参加状況になるが、これまでのべ110人の方に参加いただいた。市民意識調査結果については、2年前に比べ6.7%上昇しており、まちづくりの輪が広がっていると考えている。今後は、ずっと課題となっているが、若い世代の市政への関心を高めていけるようなアプローチを考える必要がある。
 - ・課題と今後の取り組みの方向性として、前期を終えた段階で、これまで行ってきた「高浜市の未来を創る市民会議」を一旦終了し、発展形ということで、市民の皆さんに、高浜市の共同経営者であり続けていただくため、“市民とともにシンクタンク”ということを考えており、企画検討中である。また、参画・協働・情報共有のガイドラインについて、“市民とともに”というのが高浜市の強みであるため、この趣旨の実現に向けて頑張っていきたい。
 - ・中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組みとして、先ほど説明した以外では、行政評価システムが構築されているが、見直しも必要であると考えており、シンプルかつ実効性のある仕組みになるようにしていきたい

い。また、参画・協働・情報共有の具体的なアクションということで、1つ高浜市として弱いところは、情報の発信であると認識している。ここに力を入れて、発信していくツールも含めて検討していきたい。

【意見等】

- 委員：
- ・目標（3）で、小学校への出前授業を行うという発言があったが、その前に、目標（5）の方で、マッチングをしなければいけない、授業を圧迫しているという発言もあった。こういった話は今まで何回も出ているのに、その話に参加している職員から「出前授業」という言葉が簡単に出てしまうというのはいかがなものか。もう少し視点を変えて考えていかないといけないのではないか。
 - ・広報力がないということで、ツールを検討するということであつた。ツールとは、広報やホームページだと思う。それも大事だが、例えば、観光協会、商工会、行政の横の連携など、情報の共有化ができていないと思う。以前も、テレビ局がとりめしの取材に来たが、全く知らず、ちょうどテレビで見て初めて知ったということもあつた。せつかく PR されているものを、各団体が縦割りで把握していないということではなく、もっと横の連携が取れる仕組みができると、情報発信力の弱さがカバーされるのではないか。
- 委員：
- ・全体的に通じるが、「9. 中期基本計画に向けて、今後、特に力を入れる取り組み」が、「8. 課題と今後の取り組みの方向性」に近い表現が多いように感じられる。もう少し目標値を上げるような具体的な目標や、ツールをつくる話など、前向きな表現を入れた方が伝わりやすいのではないか。
 - ・また、例えば「しっかり育てて」など表現のあいまいなものではなく、具体的に、何年かかけてできるようなことを記載していただくと良いと思う。
 - ・「4. 市民意識調査結果」には、今回の値しか入っていないが、できれば、昨年度も入れて、どういう風に推移しているかを出していただくと、データとして見やすい。また、年齢別のデータを見ると、50歳代のところが全体的に悪いように見える。これは、総合計画の中味の問題なのか、たまたまアンケートを取った対象の問題なのか、教えていただきたい。
- 行政：
- ・「中期基本計画に向けて」の「中期」というのは、来年度から始まる中期基本計画であるため、来年度から特に力を入れていく取り組みということになる。具体的なアクションプランについては、今後内容を詰めていくことになるため、このシートでは、大きな方向性の間違いがないかを確認いただきたいと考えている。表現があいまいということもあつたが、何をするというのは、中期基本計画ができてきて、来年度の予算編成などのところで、具体的に決まっていく。所管グループでは、それをイメージしながら、このシートを作成している。
 - ・市民意識調査の経年比較について、数値は2010年、2011年、2012年と並べているため、ご覧いただけるかと思うが、性別、年齢別のものをこのシー

トに入れようと思うと、スペースの関係で入れられない。

- ・50歳代の数値については、アンケートであるため、今回答えていただいた方の結果がそうであったという以上の分析はできない。あくまでも、こういった指標を掲げて進めていくというのは、必達目標ではなく、これに向けて進んで、アクションをどう変えていくのかということを組み立てていくことが、一番大事なところだと考えている。

委員： ・「中期」とあると中長期的な意味で取られる。表現を再考していただきたい。
・アンケートはとても大事だと思っており、地域性や職種といった情報があると思うため、行政内部でしっかり活用していただきたい。

委員： ・全体的な話になるが、PDCAで資料が書けるように作ってあるが、話を聞かせていただくと、PDCAがしっかりまわって書かれていないと思うものも見受けられる。例えば、目標（12）で言うと、今後、10歳代、20歳代にアプローチをしなければいけないと分析しているが、具体的にどんな風に取り組みられるか見ていくと、今後の取り組みには特に記載がない。チェックをしっかりと、アクションをきちんと取る。そのアクションをしっかりとすることによって、次のプランが出てくる。そういった形でPDCAは回るはず。こういった視点で書いてもらえると、後につながってくるのではないかと思う。

委員： ・全体的に見て、行政用語が非常に多く、よく分からない言い回しがたくさんある。市民会議のメンバーに見てもらい、チェックすることを考えると、行政に関わっていない人でも読み取れる言葉遣いをしていただきたい。

会長： ・私が気づいた点を述べさせていただく。目標（2）の指標「2）市の財政状況に関心を持っている人の割合」が下がってきているとマイナス評価されていたが、要因分析すると、任せておいても大丈夫という安心感が出ている可能性もある。必ずしもマイナスとは言い切れない。目標（5）の指標「3）過去1年間に地域行事、ボランティア活動に参画した子どもの割合」は、2011年度で大きく下がり、そこから2012年度では値が上がっている。2011年度に使った母数の問題によると思う。目標（11）の指標「2）公園をよく利用する人の割合」が下がっているのは高齢化の問題もあるかもしれない。そういった点で、外部要因も考えた方がよい。何でも行政の努力が足りないというものではない。

事務局より、資料3『施策評価（点検・確認）の進め方』について説明。

3) 各分科会の取り組みテーマの情報共有

各委員より、資料4『各分科会の「取り組みテーマ」と分科会開催状況』を基に説明。

委員： ・環境・憩い分科会では、昨晚も白熱した分科会を開催した。その中で、市民意識調査や子どもへのアンケート調査から、環境への意識が高いということが分かり、絶好のチャンスであるため、さらに輪を広げていくことで、全員参加の環境対策に取り組めるのではないかと考えている。

- ・子どもを対象とした環境学習をさらに活発していこうという話、不法投棄については、分科会の名前で施策を取っていこうという話、高浜市の課題であるごみの減量作戦について検討していこうという話になった。それぞれ継続性のあることと、子どもや高齢者も参加して一緒に取り組んでいく仕組みを作りあげて、今年度の締めくくりにしたいと考えている。

委員：

- ・防災・防犯分科会では、標高の見える化第2弾までとして、673箇所に標高の見える化を行った。平成25年度も、新しいメンバーのもと、標高の見える化の追加募集や防災訓練などを利用して標高の検証をしていきたいと考えている。2つ目に、市民会議から立ち上がった「防災ネットきずこう会」を、分科会とコラボして進展していきたい。3つ目に、市民一人ひとりの自助の認識・理解・行動を促していきたい。自助なくして、共助はできない。
- ・また、今後、10歳代、20歳代の若年層を対象とした防災対策が必要という中で、市民の有志で「高浜の防災を考える市民の会」を立ち上げた。市民予算事業を活用しており、今週の土曜日（7月27日）、子ども防災リーダー養成講座の開講式を行い、8月5日～7日には、被災地の視察も行う。まずは3年間継続し、いずれは、行政が中心となって行動をしていただきたいと考えている。

委員：

- ・現在、高浜市では、6月末時点で前年度比23%増と非常に高い数字の犯罪発生状況となっている。街頭犯罪の多さが目立っていると思うが、防犯は自分のためである。自分の財産、自分の命は、自分で守ろうということで、「自助」が大切になる。「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」もある。そういったことも皆さんに認識していただいて、防犯活動は、自分のために行うもので、行政のために行うのではないという意識を、それぞれが高めていただきたい。
- ・防犯パトロールも、まち協やいろいろな地域の人たちが一緒に行い、行政職員も活動していただいている。今後も、こうしたことを継続して、皆さんがもっと防犯活動に参加し、犯罪者にはもちろんなってはいけないが、被害者にもならないようにしていきたい。子どもたちの教育もそうだが、みんながタイアップして、条例のとおり、住みよい高浜市にしたい。まずは、行動を起こさなければいけない。
- ・今、非常に車上狙いが多い。その注意喚起を行う垂れ幕を碧南警察署よりいただいている。公共施設には貼ってある所もあるが、今後は、企業にも協力いただき、喚起を促していきたいと考えている。

委員：

- ・地域福祉分科会では、6月27日に、資料のとおり3点について話し合いを行った。その中の防災フォーラムについて、7月20日に実施済みのため、報告させていただく。
- ・特別養護老人ホーム高浜安立荘において、防災フォーラムが開催された際に、地域福祉分科会メンバーが協力させていただいた。内容は、防災講演会、起

震車体験、避難所運営ゲーム（HUG ゲーム）など。子どもから高齢者まで、障がい者も含めて、幅広い市民の方に参加いただいた。防災知識を学ぶ良い機会になり、こちらも地域の交流の場、つながりをつくるという取り組みとして、NEW ボランティア人の発掘をしたいというところでもあったため、こういった活動につなげたいと思う。

- 委員：
 - ・また、別紙「ポッチャで広げよう NEW ボランティア人の輪」というチラシを配布させていただいたが、以前から分科会対抗のポッチャ大会をできないかということで話をさせていただいている。市民会議の中では難しいということで、プレ大会を企画した。各分科会で競い合っ、NEW ボランティア人の輪を広め、深めたいと考えている。ぜひ検討、参加していただきたい。
 - ・健康分科会と地域福祉分科会での共同の取り組みについて、6月27日、合同で分科会を開催し、検討を行った。健康分科会のテーマは、「健康寿命を伸ばそう」。一般的に、男性の平均寿命は79歳、健康寿命は71歳であり差が8歳、女性の平均寿命は86歳、健康寿命は76歳であり差が10歳となっているため、その差を少しでも減らしていきたい。
 - ・合同分科会であがった話で、いつもグラウンドゴルフをしているメンバーから、「今日、少し様子がおかしいぞ」と言われて気になったため、医者に行ったところ、脳梗塞の一手手前であったという話があった。家族や仲間から病気も見つかることもある。こうした取り組みも進めていきたい。
- 委員：
 - ・産業・観光分科会は、6～7月で3回の分科会を行った。高浜野菜や瓦・鬼瓦の情報発信、アンテナショップについて話を進めている。
 - ・アンテナショップについては、「サンタカ（三高）カフェ」という名前で、高浜まち協夏まつりにおいて、味噌おでんや市内の福祉事業所の手作り作品などを販売し、具体的にスタートを切る予定。また、11月3日開催のわくわくフェスティバルへの出店も予定しており、「高浜ガールズコレクション」と「サンタカカフェ」の出店を検討している。「高浜ガールズコレクション」は、チャレンジドや高齢者の方に、市内のお店に売っている衣装を着て、ボランティアの方にメイクもしていただき、チャレンジドや高齢者が輝く場として、また、市内のお店の紹介も含め、相乗効果を狙っている。
 - ・高浜野菜については、特に、青なすとジャンボピーナッツ、コーララビの3つを売り出そうと考えており、11月24日の農業まつりでは、ジャンボピーナッツの販売を検討している。ジャンボピーナッツは、ゆで落花生ということで、地元のお祭りにも出ているが、その大きいものと考えていただければ良い。ピーナッツバターも検討しており、特産化に向け、ゆで落花生だけでなく、年中食べていただけるようにつなげていきたい。
 - ・現在、妄想チームというのが立ち上がっており、三河高浜駅西の空き店舗を利用し、サンタカカフェを立ち上げたいと考えている。アンテナショップとして、特産野菜やおでん、市内の商品、瓦の情報発信ができるお店として運

営し、駅の西側に活気が起こるようにということを考え、企画している。

委員：・学校教育分科会では、地域と学校の想いのマッチングというテーマで、地域ぐるみで子どもたちの成長を見守り、手助けする“みんなの学校”づくりというサブタイトルもつけて、活動している。昨年度から、地域を含めた行事ができないかということで、翼まち協と翼小学校 PTA と合同で、学校で防災体験をするなど、取り組みを進めている。

・また、都市防災グループと教育委員会で、学校防災検討委員会を立ち上げ、学校の実情に合った、学校が取り入れやすいものに絞り込んで、活動を進めていきたいと思っている。他の分科会で、学校向けに取り組んでいるものもあると思うが、なかなか学校も事情が厳しく、できるだけ学校の実情に合ったものを探りながら、進めていきたい。

委員：・生涯学習分科会では、生涯学習に関するネットワークを広げていこうということで、昨年度、子ども市民憲章や笑顔の写真展をもう一度見直していきたいという話と、地域の達人を発掘しようということで、広報に毎月1回連載をしている。

・地域の達人と地域の方をつなげていこうということで、「高浜（まち）の学校 お試し版」として、昨年度3月に実施したところ、非常に好評だったため、その夏季版を企画している。現在、ネット上でも情報を公開しており、鉄道模型講座を8月11日にぎっくばらんなカフェ田戸店で開催、8月17日にはふるさと講座の中で、「私の戦争体験」ということで女性から見た戦争体験を語っていただく予定。現在、「ウルトラマン創世紀展」がかわら美術館で開催されているが、それにも少し協力いただき、「高浜の学校」を開催予定である。また、8月31日には、高浜市にたくさんみえる外国人の方と交流するという意味も込め、外国の料理を一緒につくって食べる体験講座を計画している。地域の連携、ネットワークづくりも進めるため、婦人会の方と健康にこだわった料理を作ってみてはということも、企画している。

・今後、秋季講座も検討していく。まちにはこんな人がいるということを知り、いろいろなところとネットワークがつながるきっかけづくりになればと思っている。

委員：・自治推進分科会では、「参画・協働・情報共有のガイドライン」については、6月17日の分科会で、行政が作成したガイドラインの案を市民目線で検討した。ここはおかしい、もっとこんな視点で作る必要があるといったような意見が出て、現在、行政で再度修正を行っているという状況である。

・出前授業については、今年度は、全小学校へ出かけるということで、教育委員会と進め方の打合せを行い、実施への理解をおおむね得られたと聞いている。昨年度、自治基本条例のフォーラムに出かけ、他の市町村の方と話したところ、「学校での教育はとてもじゃないが実施できない」という話を聞いた。そういう中で、教育委員会との相互乗り入れから検討ができるというこ

とで、画期的なことではないかと思っている。広報たかはま7月15日号には、出前授業と一緒に掛けるメンバーを募集している。分科会では、中心的に企画・実施していくが、全小学校へ行こうと思うと人手が要る。他の分科会の方でも、ぜひ本人の参加、紹介も含め、ご協力いただけると嬉しい。

・来週の分科会では、新しいメンバーもいるため、昨年度の出前授業の振り返りなどを行い、具体的な授業の内容や実施方法を検討していきたい。

委員： ・財政分科会では、財政への興味を持ってもらえる取り組みを進めていこうということで、7月5日に分科会を開催した。取り組みテーマについては、若手職員が非常によく考えてくれて、大変助かっている。広報でクイズを出そうという話を以前もさせていただいた。賞品に青なすを出したいと考えていたが難しいという話であったため、神谷委員と相談しながら、賞品を決めていきたいと思っている。

会長： ・前回の会議でも申し上げたが、各分会の連携・協力が多く実現しており、非常にパワフルで良いと感じた。

・目標値の扱い方について一部疑問があるため、少し述べさせていただく。現状値が目標値を上回っているから安心して良いというもの、安心したらいけないものがある。積み上げていって下がらないものは良いが、手を緩めたら元に戻るというものもある。そういう意味では、見直すべき目標値と見直す必要のない目標値が出てくる。その辺りを取捨選択して考える必要がある。例えば、犯罪発生率は手を緩めたらすぐに上がってしまう。逆に、ボランティアの登録数は、積み上げ型であるが、登録をやめたりする場合もあるため、その辺りも考えなければいけない。数値は途中経過だと考えると良い。

3. その他

財務 GL： 平成 25 年度高浜市行政評価外部評価結果報告書について

・行政評価委員会で行った外部評価結果の報告書について、7月22日に市長へ報告されたため、写しを配布させていただいた。結果については、報告書の P.6 に記載があるが、9割が現行通りとなっており、6事業について見直しが必要であるという結果になっている。8月に各分科会で点検・確認が行われることになるため、その際に、この報告書の内容を活用いただきたい。

・また、今年度からは、四半期ごとにアクションプランの進捗状況を市民の皆さんにお示ししていこうと考えており、シートにまとめて、委員の皆さんに配布したいと思っている。点検・確認の際に、平成 25 年度のアクションプランが予定通り進んでいるのか、何か課題が出てきて、どう対応したのかといったことを一緒にご確認いただければと思う。

・議事録については、書面表決とする。

・次回日程：9月25日（水）午後7時～